

地域がん診療連携拠点病院の整備に関する 追加照会事項についての回答（メモ）

和歌山県

1 一つの医療圏から2病院を推薦することの必要性について

本県には7つの二次保健医療圏があるが、人口規模や医療資源は和歌山保健医療圏に集中しているため、県としては既存の二次保健医療圏の枠にとらわれず、県全体を見据えて広域的観点に立って、がん診療連携拠点病院を配置していく必要があると考えている。

今回推薦する2病院は、がん診療について取り扱うがんの種類等が互いに補完的關係にあり、また所在する田辺保健医療圏に隣接する医療圏も含めてカバーしていく必要があるという観点から推薦するものである。

2 隣接する他の圏域の医療機関からの申請について

今回申請のあった医療機関は、所在する田辺保健医療圏のがん患者以外に、隣接する御坊保健医療圏及び新宮保健医療圏からの患者も広く受け入れている。

御坊保健医療圏及び新宮保健医療圏において、地域医療の中核となる医療機関はあるが、いずれもがん診療機能が充実しておらず、がん取扱患者数も非常に限られているため、現時点ではこれらの医療機関からの申請は見込めない。

3 県拠点病院の整備について

県立医大を含めて、和歌山市内にがん診療機能が充実した病院が複数あるので、今後協議の上、18年10月末までに県拠点病院としての推薦を目指したいと考えている。

がん診療連携拠点病院推薦書

国の整備指針において、「地域がん診療連携拠点病院」は、二次医療圏に1箇所程度、「県がん診療連携拠点病院」は、県内に概ね1箇所整備することとされています。

本県においては、がん医療は住民の身近なところで良質な医療サービスを提供することが必要であるとの認識に基づき、7二次医療圏全てに、「がん診療連携拠点病院」を整備するとともに、特に広島二次保健医療圏では地理的・機能的な要因等から「県がん診療連携拠点病院」1箇所を含む4医療機関程度を整備するよう保健医療計画の中で具体的に位置づける方向で考えています。

このため、今回の推薦につきましては、がん医療専門家、関係団体等と十分調整したうえで、7二次医療圏全てに、「がん診療連携拠点病院」の医療機関を推薦するとともに、広島二次医療圏については、4医療機関を推薦することとしましたので、よろしく申し上げます。

1 「県がん診療連携拠点病院」について

広島大学病院については、複数種類の腫瘍に対する抗がん剤治療を行なう機能を有する「がん治療センター」を設置するとともに、県内の医療機関で専門的がん医療に携わる医師・看護師等を対象とした研修を実施しているなど、がん診療に関して全県の指導的役割を担っており、県がん診療連携拠点病院として推薦したところです。

当病院については、国の都道府県がん診療連携拠点病院の指定要件を十分に充足していると考えられるため、県がん診療連携拠点病院として指定されるよう、よろしく申し上げます。

2 広島二次医療圏について

- 広島二次医療圏は、広島市を中心として県北の中山間地域を抱え、県の人口のうち約46%（人口約132万人）を占めるとともに、神奈川県とほぼ同じ2,502平方キロメートルを有しています。
- また、この圏域内には、本県のがん医療の先駆的・中核的な役割を担う中核病院として広島大学病院、県立広島病院、広島市民病院、広島赤十字・原爆病院の4医療機関があります。
- この4医療機関については、国のがん診療連携拠点病院の指定要件を十分に充足していると考えられるとともに、本県の中でも、特にがん医療水準が高い医療機関であり、この度、推薦しました。
- 今後の「保健医療計画」の見直しの中で、これまでの実績等から
 - ・ 県立広島病院については、南部地域及び島しょ部
 - ・ 広島市民病院は中央部及び北部地域
 - ・ 広島赤十字病院・原爆病院は西部地域を主に分担し、機能面では県立広島病院が緩和ケアの分野で、広島赤十字・原爆病院が血液がん治療の分野で全県を対象とした活動を担うこととしています。

なお、広島市民病院では、肺がん、乳がん等の外科手術件数が多く、本県のがん治療分野で重要な役割を担っております。

＜県立広島病院＞

緩和ケア科と緩和ケア支援室を有する「緩和ケア支援センター」を設置し、

- ① 患者・家族、医療関係者に対する情報発信
- ② 医師・看護師・福祉関係者に対する専門研修
(平成16年9月から平成17年8月までの1年間)
 - ・医師研修…終了者26名
 - ・ナース育成研修…終了者209名
 - ・ナース専門研修(実践研修含む)…終了者17名
 - ・ナースフォローアップ研修…終了者26名
 - ・福祉関係者研修…終了者33名
- ③ 緩和ケアに関する総合相談(電話相談・個別面談)
- ④ 各圏域において緩和ケアを推進する医療機関・福祉関係者等に対するアドバイザー派遣(各圏域で緩和ケア推進チームの設置・運営、症例検討会等実施)
- ⑤ デイホスピス事業(音楽療法、リンパマッサージ等含む)などを実施し、全県的な緩和ケアを推進しています。

＜広島市民病院＞

肺がん、乳がん等の外科手術の分野で実績があり、平成17年において

- ① 肺がん外科手術件数…236件
- ② 乳がん外科手術件数…234件
- ③ 胃がん外科手術件数…154件

などで多くの手術を実施し、本県のがん治療分野における、がん医療水準の向上に努めています。

＜広島赤十字・原爆病院＞

血液がん分野において、全県対象の活動を行っており、平成17年度において

- ① 血液内科の入院実数…1,392名
- ② 血液内科の外来抗がん剤治療件数…4,124件
- ③ 骨髄移植実績…59件

など実施し、本県のがん医療水準の向上に努めています。

- 4医療機関については、全がん疾患に対応する「がん診療」が行えるよう、それぞれの機能を相互補完し、ネットワーク化を図ることにより、広島二次医療圏はもとより、県全体のがん医療水準の向上を目指すこととしています。
- 更に、本県の地域がん登録事業においても、県内のがん登録件数のうち、約半数を当該4医療機関の登録件数が占めており、がん登録事業に大きく貢献しています。今後も、「がん診療連携拠点病院」の指定により、引き続き登録事業の中核を担うことが期待されています。
- 以上のように、本県がん医療水準の向上のため、当該4医療機関は必要不可欠であることから、全てが指定されるよう特段の御配慮をお願いいたします。

3 広島二次医療圏を除く各二次医療圏



- 本県では「保健医療計画」の見直しの中で、広島二次保健医療圏を除く6医療圏については、それぞれ1箇所程度、整備することで考えています。
- 本県は広大な面積を有する中山間地域を多く抱えており、特に備北二次医療圏は、圏域面積が東京都とほぼ同じ2,025平方キロメートルで本県の面積の約24%を占め、医療資源の比較的乏しい地域であり、他圏域への交通アクセスも悪く、圏域内の身近な医療機関で質の高いがん医療を受けることが求められています。
- このため、今回、広島二次医療圏を除く各二次医療圏については、1箇所ずつ推薦をしたところです。
- 今後も、これらの医療機関については、県及び県がん診療連携拠点病院を含む広島二次医療圏の4医療機関が連携を密にし、適時指導を行うことで、更なるがん医療水準の向上を図っていくこととしています。
- つきましては、住民が身近なところで良質な医療サービスを受けられるよう、広島二次医療圏以外の圏域に全ての医療機関が指定されるよう、格別の御配慮をお願いいたします。

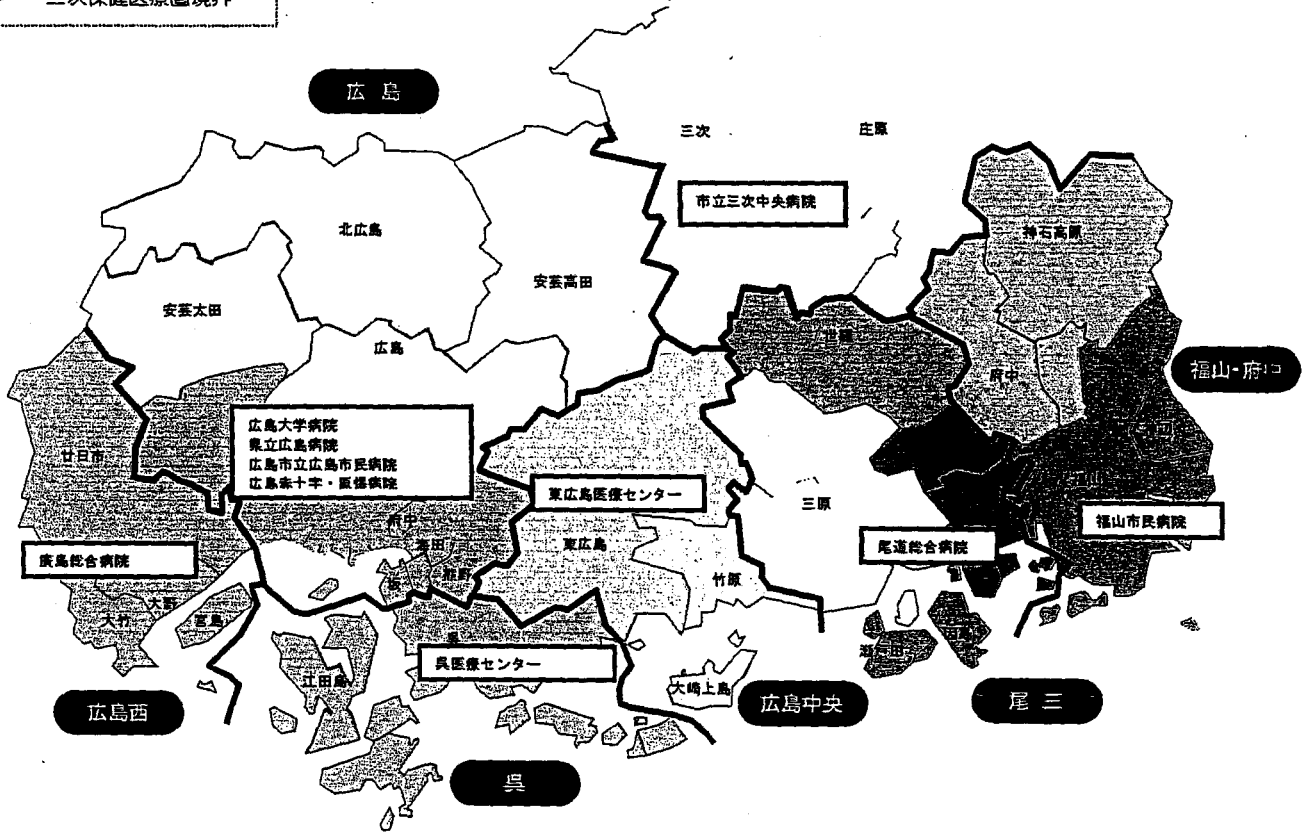
広島県2次医療圏の概要

1 圏域図

二次保健医療圏・二次救急医療圏

備北

 二次保健医療圏名
 二次保健医療圏境界



2 概要

(平成18年5月12日現在)

医療圏名	面積 (km ²)	人口 (人) 16.3.31 現在	人口割合 (%)	人口密度	病院数 17.3.31 現在	がん診療連携拠点病院		
						既指定病院数	今回推薦病院数	計
広島	2,502	1,312,582	45.7	524.6	103	0	4	
広島西	568	148,654	5.2	261.7	14	0	1	
呉	454	287,366	10.0	633.0	35	0	1	
広島中央	797	221,446	7.7	277.8	21	0	1	
尾三	1,034	272,583	9.5	263.6	26	0	1	
福山・府中	1,096	520,934	18.2	475.3	53	0	1	
備北	2,025	105,990	3.7	52.3	11	0	1	
計	8,476	2,869,555	100.0	338.6	263	0	10	

注1)「人口割合欄」は、県全体の人口に対する圏域ごとの割合を記入

注2)「人口密度欄」は、各医療圏ごとに、人口/面積 (km²) (小数点以下第2位四捨五入) により算出した数値を記入

注3)「病院数」欄は、拠点病院以外の病院も含めた数を記入 (一般診療所等は除く。)

推薦意見書

高知県

1 都道府県がん診療連携拠点病院として推薦する医療機関
高知大学医学部付属病院

2 推薦理由

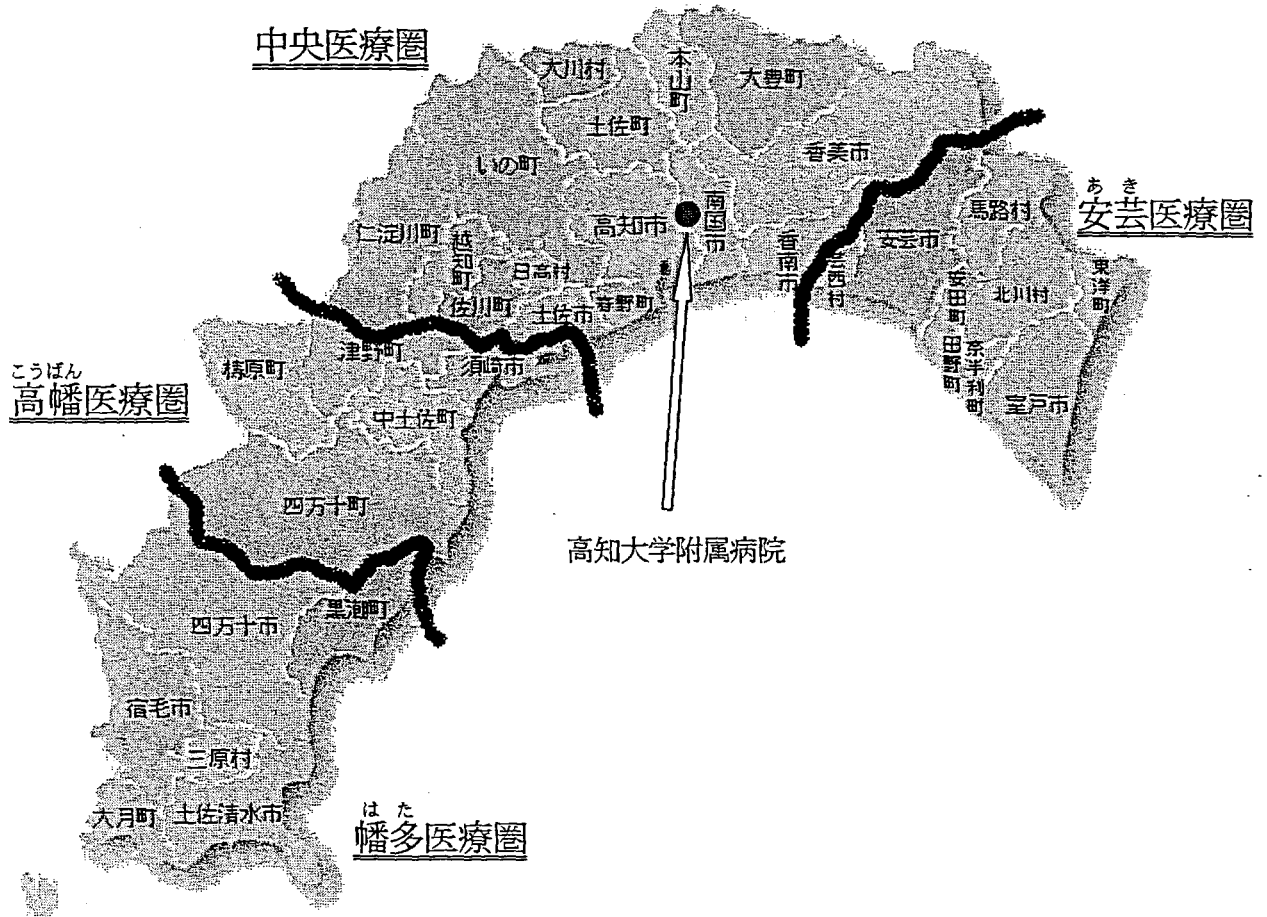
高知大学医学部付属病院は年間約 2,700 人の悪性新生物入院患者（同病院入院患者の約 35%）の診療を行っている。

同病院は、本年 4 月に PET センターを開設するなど、がん診療機能の充実に向け積極的に取り組んでおり、別添新規指定推薦書の通り、本県におけるがん診療の中心的な役割を果たす医療機関として、都道府県がん診療連携拠点病院の指定を受けるにふさわしい診療体制、研修体制、情報提供体制を備えていると考えられる。

なお、今回の推薦にあたり、平成 18 年 4 月 25 日に開催された高知県医療審議会に意見を求めたところ、同院を都道府県がん診療連携拠点病院として推薦することが望ましいとの内容で意見が一致した。

高知県 2次医療圏の概要

1. 圏域図



2. 概要

平成18年3月1日現在

医療圏名	面積 (Km ²)	人口	人口割合 (%)	人口密度	病院数	がん診療拠点病院		
						既指定病院	今回推薦病院数	計
安芸	1,128.92	57,930	7.30	51.3	8	0	0	0
中央	3,008.75	569,182	71.69	189.2	106	1	1	2
高幡	1,405.44	65,946	8.31	46.9	8	0	0	0
幡多	1,561.90	100,851	12.70	64.6	20	0	0	0
計	7,105.01	793,909	100.0	111.7	142	1	1	2



18高医薬第650号

平成18年7月7日

厚生労働省健康局総務課

がん対策推進室長 様

高知県医療薬務課長



がん診療連携拠点病院の指定推薦について

このことについて、下記のとおり回答いたします。

1. がん診療連携拠点病院が、1医療圏内に2カ所となること

高知県には、4つの医療圏がありますが、人口も医療資源も高知市を中心とする中央医療圏に集中しています。

このため、がん診療の核となりうる可能性のある医療機関が、県西部の幡多医療圏には1カ所あるものの、残る2医療圏には存在しません。

この2医療圏をカバーする必要があるため、中央医療圏内に2カ所の診療連携拠点病院を整備しようとするものです。

2. がん登録、腫瘍センター、緩和ケア体制の実施、整備の時期について

このことについては、別添のとおり大学病院から提出があり、下記のとおり確認しました。

(1) がん登録

平成19年1月に更新を行う総合医療情報システムにより開始

(2) 腫瘍センターの設置

7月末日までに設置

(3) 緩和ケア体制

7月末日までに設置

推薦意見書

熊本大学医学部附属病院は、診療、教育、研究の3つの役割があり、地域の拠点病院を取りまとめ、研究教育の立場から拠点病院をリードする立場と位置付けられ、地域がん診療連携拠点病院の整備に関する指針における指定要件を満たしていると認められます。

また、平成18年3月に学識関係者や利用者代表等で構成される熊本県がん診療連携拠点病院推薦検討委員会を開催し、同病院を熊本県がん診療連携拠点病院として推薦することの承認を受けております。

特に、同病院は、平成17年8月に熊本県におけるがん治療水準の向上を包括的に行うことを目的に「熊本がん治療フォーラム」を設立し、各科横断的な方向性を持ったがん治療の確立、全国学会が推進するがん治療専門施設の認定や腫瘍医の育成、熊本県下のがん診療従事者への全国学会や治療に関する情報提供等を推進するとともに、がん専門医の確保に努め、県域の「がんセンター」としての役割を担う取組みを進めています。

このような取組みを活かし、熊本県におけるがん医療水準の均てん化を実現していくためにも、熊本大学医学部附属病院を熊本県がん診療連携拠点病院として指定することが妥当であると認められます。

平成18年4月18日

熊本県知事 潮谷 義子

熊本県 2次医療圏の概要

1. 圏域図

別添のとおり

2. 概要

(平成18年4月18日現在)

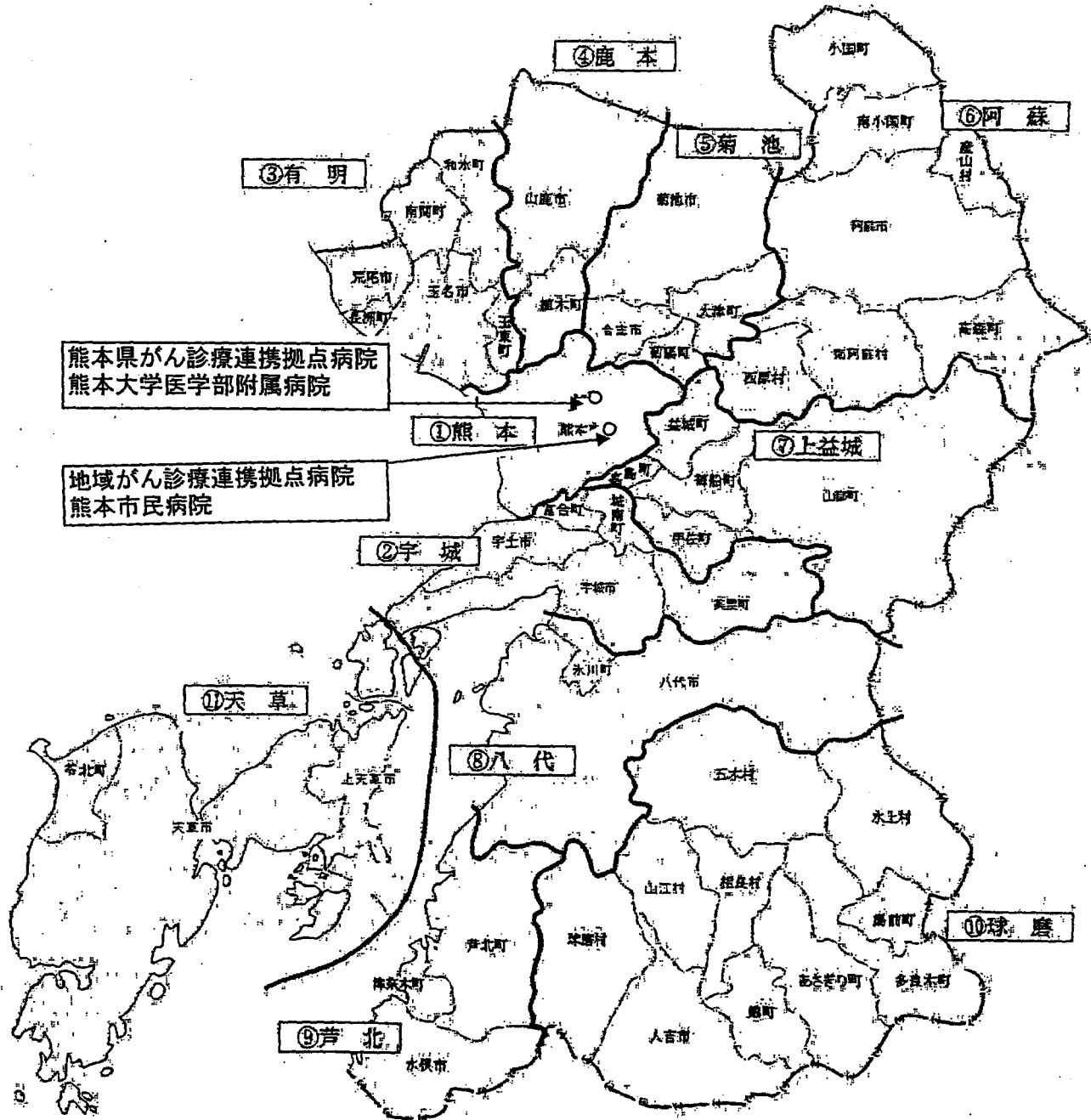
医療圏名	面積(km ²)	人口	人口割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院		
						既指定病院数	今回推薦病院数	計
熊本	267.08	669,541	36.3	2506.9	89	1	1	2
宇城	463.24	140,910	7.6	304.2	19	0	0	0
有明	421.22	173,931	9.4	412.9	12	0	0	0
鹿本	365.48	88,500	4.8	242.1	10	0	0	0
菊池	466.49	165,046	9.0	353.8	16	0	0	0
阿蘇	1079.26	70,351	3.8	65.2	6	0	0	0
上益城	784.03	89,761	4.9	114.5	13	0	0	0
八代	713.51	150,118	8.1	210.4	14	0	0	0
芦北	430.55	55,385	3.0	128.6	10	0	0	0
球磨	1537.71	100,689	5.5	65.5	13	0	0	0
天草	876.09	137,908	7.5	157.4	19	0	0	0
計	7404.66	1,842,140			221	1	1	2

注1) 「人口割合」欄は、県全体の人口に対する圏域ごとの割合を記入すること。

注2) 「人口密度」欄は、各医療圏ごとに、人口/面積(km²) (小数点以下第2位四捨五入)により算出した数値を記入すること。

注3) 「病院数」欄は、拠点病院以外の病院も含めた数を記入すること。

熊本県における二次医療圏域図



鹿児島県 2次医療圏の概要

1. 圏域図

別添のとおり

2. 概要

(平成 年 月 日現在)

医療圏名	面積(km ²)	人口	人口割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院		
						既指定病院数	今回推薦病院数	計
鹿児島保健医療圏	679.04	605,522	34.54	891.7	105		2	2
指宿保健医療圏	259.19	60,946	3.48	235.1	14			0
南薩保健医療圏	606.06	94,892	5.41	156.6	21			0
日置保健医療圏	364.99	85,404	4.87	234.0	17			0
川薩保健医療圏	986.62	128,060	7.30	129.8	20			0
出水保健医療圏	578.89	94,941	5.42	164.0	12			0
伊佐保健医療圏	392.45	31,498	1.80	80.3	6			0
始良保健医療圏	979.33	214,685	12.25	219.2	29			0
曾於保健医療圏	869.63	96,473	5.50	110.9	12			0
肝属保健医療圏	1,233.78	166,381	9.49	134.9	26			0
熊毛保健医療圏	994.84	47,903	2.73	48.2	5			0
奄美保健医療圏	1,239.08	126,439	7.21	102.0	16			0
計	9,186.71	1,753,144	100.00	190.8	283	0	2	2

注1) 「人口割合」欄は、県全体の人口に対する圏域ごとの割合を記入すること。

注2) 「人口密度」欄は、各医療圏ごとに、人口/面積(km²) (小数点以下第2位四捨五入)により算出した数値を記入すること。

注3) 「病院数」欄は、拠点病院以外の病院も含めた数を記入すること。

※1 (面積:国土交通省国土地理院「全国土道府県市区町村別面積調べ(平成12年10月1日)」)

なお、一部境界未定の市町村については、昭和62年10月1日現在の面積で計算のため、県計と各医療圏の積算値は一致しない。))

2 人口は、平成17年度国勢調査速報結果による。

平成18年7月
鹿 児 島 県

指定推薦を行ったがん診療連携拠点病院が同一の2次医療圏
にあることについて

がん診療連携拠点病院として指定推薦を行った鹿児島大学病院及び国立病院機構鹿児島医療センター（以下「鹿児島医療センター」という。）が同一の2次医療圏（鹿児島医療圏）に属していることについては、下記の考え方で推薦を行ったものである。

記

- 1 今回推薦を行った病院のうち、鹿児島大学病院は、鹿児島医療圏に属しているが、県がん診療連携拠点病院として、他の2次医療圏も含めて鹿児島県全体のがん医療の中心的な機能を担うものであり、鹿児島医療圏を主体としてがん医療を提供する鹿児島医療センターとは、その果たすべき役割が異なっている。

（ 今回の推薦は、鹿児島医療圏にある2病院であるが、鹿児島医療圏以外の2次医療圏においても、今後、指定要件の整った病院の中から推薦を行っていく予定である。 ）

- 2 鹿児島大学病院は、鹿児島県におけるがん医療の拠点として、離島・地域医療連携部を設けるなど鹿児島医療圏以外の2次医療圏の患者にも広く対応している。

また、鹿児島医療センターについては、鹿児島医療圏のほか、同医療圏の北部に位置する始良医療圏の患者にも対応している。